



はじめての美術

絵本原画の世界 2013

2013.9.14 SAT-10.27 SUN



大村(山脇)百合子『ぐりとぐら』1963年

絵本は、子どもたちが“はじめて” 出会う美術です。『ぐりとぐら』、『おおきなかぶ』、『ごろごろにゃーん』、『ジオジオのかんむり』など、世代を超えて愛されるロングセラーを数多く生み出した月刊絵本「こどものとも」(1956年創刊／福音館書店)。「子どもにこそ真の芸術を」という信念のもとに生まれたこれらの絵本には、彫刻家の佐藤忠良、日本画家の秋野不矩や堀文子、当時は漫画家の長新太など、それまで絵本を手がけたことのなかったさまざまなジャンルの作家が参加し、絵本史の中でも高い評価を受けています。彼らにとっても、絵本は日頃の制作の枠をこえた“はじめて”の世界でした。本展では「こどものとも」初期作品を中心とした、宮城県美術館の1万枚以上に及ぶ国内有数の絵本原画コレクションの中から、26作家43タイトル327点の絵本原画を展示します。

見どころ

- ① 『ぐりとぐら』、『おおきなかぶ』、『ごろごろにゃーん』、『ジオジオのかんむり』、『はじめてのおつかい』、『しょうぼうじどうしゃじぶた』など、**ロングセラー絵本の数々**を一挙公開！
- ② 日本の絵本史を牽引した「こどものとも」の初期作品・代表作を中心に、**26作家、43タイトル、327点**を展示。
- ③ **日本を代表する画家や彫刻家たち**の、美術的にも質の高い作品の数々をご覧ください。
- ④ 山脇百合子(『ぐりとぐら』他)、長新太(『ごろごろにゃーん』他)、林明子(『はじめてのおつかい』他)らの人気作家は、**絵本デビュー作から近年の作品まで**、作家ごとに見ることができます。

【プレスリリースのお問い合わせ】 展覧会担当：安岡・森谷 広報担当：大庭・青木

静岡市美術館 〒420-0852 静岡市葵区紺屋町17-1 葵タワー3F

SHIZUOKA CITY MUSEUM of ART tel. 054-273-1515 (代表) fax. 054-273-1518 www.shizubi.jp

見どころ①

今まで絵本を手がけたことのなかった、一線で活躍する画家や彫刻家たちを起用

「子どもにこそ真の芸術を」という信念のもと、1956年、日本ではじめての1冊1話の月刊物語絵本「こどものとも」が誕生(福音館書店)。従来の、幼児・児童向けのさし絵を専門とする「童画家」の描く、甘く味つけされた絵ではなく、一線で活躍する画家や彫刻家たちの、作家本来の表現を展開。これにより、日本では「こどものとも」が牽引するかたちで、芸術性ゆたかな作品の数々が出版され、それまでとは違った、新しい絵本の絵画表現が誕生した。作家は、当時の編集長・松居直氏*自身が美術展を見てまわり、「語りかける」絵を描けそうな作家を選んだという。とくに初期の頃は、新制作協会*のメンバーが多いことが特徴。



堀文子《ピップとちようちよう》1956年

日本画家・堀文子

日本ではじめての創作物語絵本の誕生！
貴重な創刊号の表紙絵も展示

創刊号の原画を目にした編集長・松居氏は、その美術作品としての素晴らしさに感動し、原画を保存することを決意。当時、絵本原画は版下と同じ扱いで、印刷された後は捨てられることも珍しくなかった。松居氏の英断がなければ、今私たちがこうして60年前の絵本原画を目にすることはなかった。

*松居直(まいつただし)…日本美術に親しむ幼少期、学生時代を経て、1956年「こどものとも」創刊。作家、画家ともに昭和期の児童書を支えた数々の才能を発掘。叔父に洋画家の須田国太郎がいる。

*新制作協会…気鋭の若手洋画家によって1936年に「新制作派協会」として発足。別に1948年に創立された日本画の創造美術協会と1951年に合同し「新制作協会」となる。新制作協会のメンバーで「こどものとも」(本展出品作家に限る)を手がけた作家に、堀文子、秋野不矩、稗田一穂、佐藤忠良、小野かおるがいる。

日本画家・秋野不矩 (静岡県出身)



秋野不矩《うらしまたろう》1972年

身近な人物をモチーフに具象彫刻を追求した、日本を代表する彫刻家、佐藤忠良の作！
彫刻家だからこそ描くことのできた、無駄のない人間の描写。
脚色のない作家本来のデッサン力をいかした作品。



佐藤忠良《おおきなかぶ》1962年

日本画家・稗田一穂



稗田一穂《しらさぎのくるむら》1958年

絵本の1.5倍ほどある、
原画ならではの迫力を体感！

彫刻家・佐藤忠良

1912-2011年。宮城県生まれ。
1944年召集され、シベリア抑留生活を体験。
ロシアの民話『おおきなかぶ』は、人体の動きにその表現の要があると判断した編集長・松居氏が、彫刻家であり、現地を知る佐藤忠良に挿絵を依頼して誕生したロングセラー絵本。
1990年、宮城県美術館に佐藤忠良記念館開設。

土方75歳の作！本人が自ら採集したサトワヌ島の民話



土方久功《おによりつよいおまいー》1975年

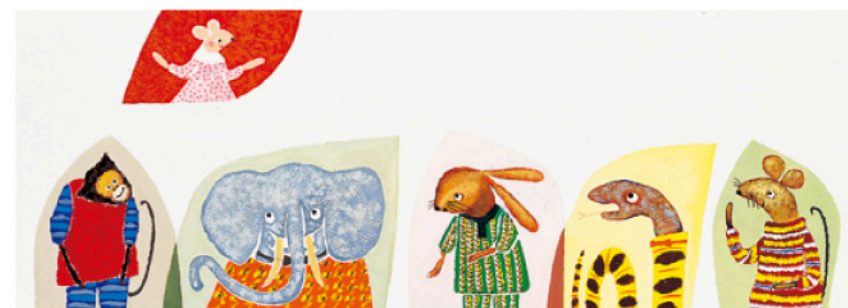
バラオの民話を素材とした、素朴で無垢なユーモア。
原初の生命の力強さを感じる、不思議な存在感。

彫刻家・民族誌家・詩人・土方久功

1900-1977年。東京生まれ。
1929年バラオに赴き、島民と生活を共にしながら彫刻、絵画を制作し、「日本のゴーギャン」と評された。
1941年、バラオで文学者・中島敦と出会い、交流を深めた。

洋画家・桂ゆき

桂ゆきの作品を特徴づけるコラージュ的な技法



桂ゆき《びちこちゃんの けっこん》1971年

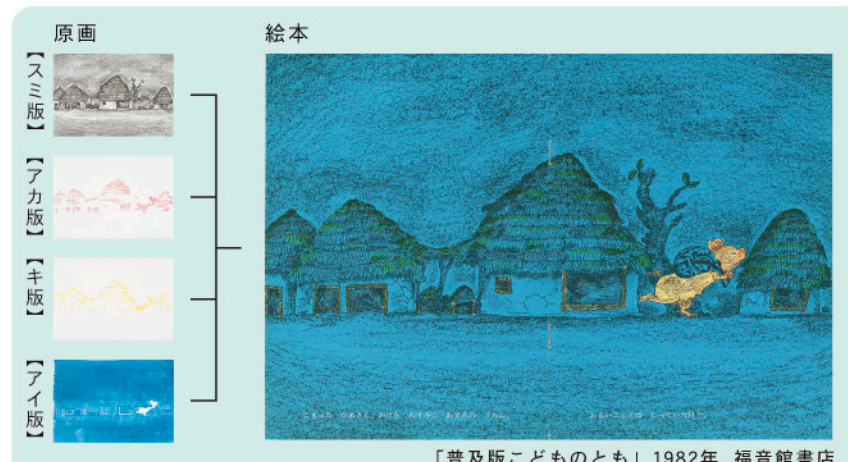
洋画家・富山妙子



富山妙子《クリスマスのほし》1964年

洋画家・小野かおる

印刷も技法のひとつ…珍しい描き分け版も展示！



小野かおる《はなかげこぶた》1982年

劇作家・演出家・作家等多方面で活躍 村山知義 (むらやまともし)



村山知義《おなかのかわ》1975年

絶版のため、
入手困難な絵本の原画も多数出品！



小野かおる《われたたまご》1972年

見どころ② 新しいジャンルから、新たな作家を発掘

漫画家、デザイナー、イラストレーターから絵本作家へ

「こどものとも」が創刊された1950年代後半から商業アートが盛んに。「こどものとも」のもう一つの特徴は、この新しいジャンルの作家にいち早く注目し、絵本原画の制作を依頼したことにある。「こどものとも」24号『がんばれさるのさらんくん』で絵本デビューを果たした長新太は、漫画家から日本を代表する絵本作家となった。彼は2作目の絵本で文藝春秋漫画賞を受賞(1959年)。絵本の絵が作品として評価される契機となったばかりか、漫画家の活躍の場が大いに広がった。また、1961年「こどものとも」は日本ではじめて、ヨコ判・左開きを採用。文字も横組みとなり、場面はこれまでとは逆に、左から右へ展開することになった。これにより表現の自由度が増し、ヨコ長の画面を生かした絵本が次々と誕生した。その直後、『おおきなかぶ』(1962年)、『ぐりとぐら』(1963年)、『しょうぼうじどうしゃじぶた』(1963年)などのロングセラー絵本が次々と誕生。「こどものとも」による絵本表現の改革が、現代の絵本作りの原点となった。

車や電車を描いた山本忠敬、船を得意とした寺島龍一らは、乗り物絵本の原型を築いた。
また彼らは、日本初の児童百科事典の描き手でもあった。

本作は一度、タテ長の判型で出版されたが、ヨコ判・左開き採用後に再構成し、出版された新版。



「こどものとも」54号
1960年
福音館書店

機械的な正確さのなかにある、親しみのもてる「やわらかさ」

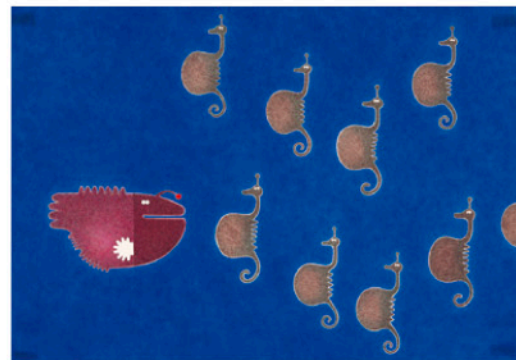


山本忠敬『のろまなローラー(新版)』1965年

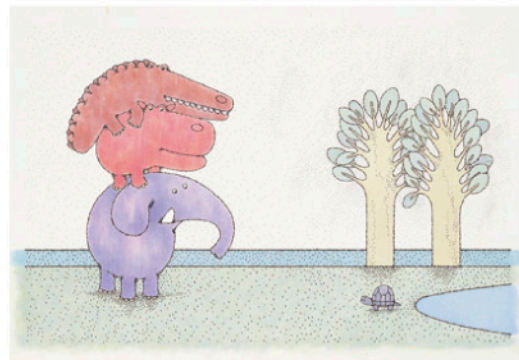
デザイナーから絵本作家へ

山本忠敬 (やまもとただよし)

1916-2003年。東京生まれ。
東京美術学校(現・東京藝術大学)工芸科図案部
在学中より、百科事典のさし絵を手がける。
卒業後はアニメーションの研究に携わる他、
アートディレクターとして活動をつづけ、
児童書や教科書のさし絵を描いた。
乗り物を題材とした物語絵本を数多く制作。



なかのひろたか『ちょうちんあんこう』1966年



なかのひろたか『ぞうくんのさんぽ』1968年

デザイナーから絵本作家へ
なかのひろたか

見事なデフォルメと、
リズムカルな色とかたち



矢吹申彦『きょうりゅうがすわっていた』2000年



矢吹申彦『きょうりゅうがすわっていた』2000年

デザイナー・イラストレーター
矢吹申彦 (やぶきのぶひこ)
印刷技術を熟知した絵本づくり

描いているのはベニヤ板！
印刷することを前提に
描いているからこそ、
画材も支持体も、絵本に
合わせて自由に選べる。

漫画家から絵本作家へ

長新太 (ちょうしんた)

1927-2005年。東京生まれ。1947年東京日日新聞の漫画コンクールに一等入選し、翌年から同社にて働く。以後、単色の一コマ漫画を主な活動の場とし、漫画家として活躍。デザイナーで絵本作家の堀内誠一との出会いがきっかけで、1958年に絵本第1号『がんばれさるのさらんくん』の挿絵を担当。1959年文藝春秋漫画賞を受賞。その後も漫画、絵本原画、エッセイなどを中心に多彩な活動を繰り広げ、受賞歴多数。1994年紫綬褒章受章。ナンセンスな展開と画風で、子どもから大人まで幅広いファンがいる。

4タイトル計26点でたどる、 長新太の画風の変遷



絵本デビュー作

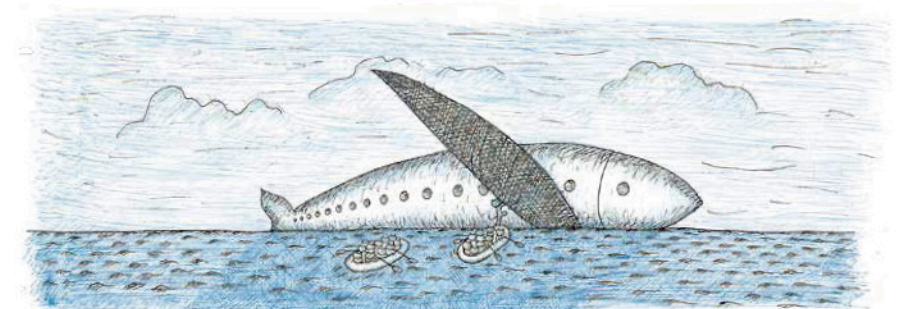
長新太『がんばれさるのさらんくん』1958年



長新太『おしゃべりなたまごやき』1972年

強い輪郭線で描かれた
デビューから…
ナンセンスの世界へ！

絵本原画の面白さのひとつは、素材の自由さ。
本作は3色のサインペンのみで描かれている。



長新太『ごろごろにゃーん』1976年



長新太『どろにんげん』1997年

職業柄、印刷技術を熟知していた長新太の作品には、原画からは想像できないような色味が見られる絵本もある。基本、色見本は3通り出していたという。まさに印刷技術も技法の一つ。

見どころ③ 「絵本作家」が職業に

「こどものとも」から生まれた、日本を代表する絵本作家たち

山脇百合子の『ぐりとぐら』、中谷千代子の『ジジオのかんむり』、林明子の『はじめてのおつかい』は、いずれも「こどものとも」から誕生した絵本デビュー作。また、この頃から「絵本作家」が職業として確立。それは、絵本の絵が絵画表現の領域として独立し、認知されていった証でもあった。

山脇(大村)百合子 (やまわき(おおむら)ゆりこ)

1941年ー 東京生まれ。1960年より福音館書店「母の友」連載の挿絵を担当。同誌掲載の短編「たまご」をもとに、大学在学中の1963年、姉・中川梨枝子(児童文学作家)と絵本『ぐりとぐら』を出版。その後も姉妹のコンビで童話の挿絵や絵本を多く手がける。今年は『ぐりとぐら』誕生50周年。累計400万冊以上のミリオンセラーとなっており、9か国語で翻訳され、海外でも愛されている。(1966年以前は旧姓の大村、以後は山脇と名乗る。)



今年は
『ぐりとぐら』
誕生50周年！

まん中のカットは、
絵本には使われなかった
一枚。これを見ることが
できるのも原画展ならではの
楽しみ。

絵本デビュー作

大村(山脇)百合子《ぐりとぐら》1963年

『ぐりとぐら』をはじめ、4タイトル39点を展示！



山脇百合子《ぐりとぐらのうたうた12つき》2003年



山脇百合子《ぐりとぐらのうたうた12つき》2003年

パソコンがなかった時代は、原画に直接はさみを入れてレイアウトを変更。そればかりか、ほんの数十年前までは絵本として印刷・出版された後、原画は捨てられることも珍しくなかった。



大村(山脇)百合子《そらいろのたね》1964年



大村(山脇)百合子《そらいろのたね》1964年

こんなところにもぐりとぐらが…！

林明子 (はやしあきこ)

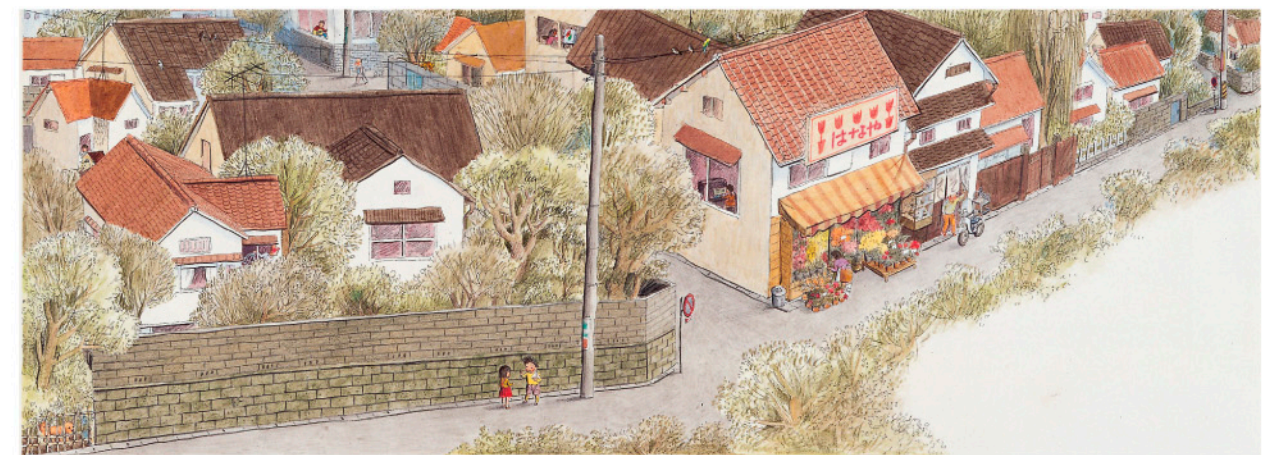
1945年ー 東京生まれ。1969年より雑誌にカットを描きはじめ、1971年独立。1976年『はじめてのおつかい』など、子どもを主人公とした絵本で定評を得る。繊細な人物描写、巧みな場面展開の情感あふれる表現が特徴。



林明子《おふろだいすき》1982年



林明子《こんとあき》1989年



絵本デビュー作

林明子《はじめてのおつかい》1976年

日本ではじめて油彩で絵本を描いた作家！

中谷千代子 (なかたにちよこ)

1952ー1981年。東京生まれ。東京美術学校(現東京藝術大学)油絵科卒業。在学中、洋画家・梅原龍三郎に師事。絵本デビュー作『ジジオのかんむり』などが、フランスやスイスの著名編集者らに高く評価され、日本の絵本の海外出版の先駆けとなった。油彩によるナイーブでユーモアある描写、独特な動物表現で国内外で高い評価を得る。

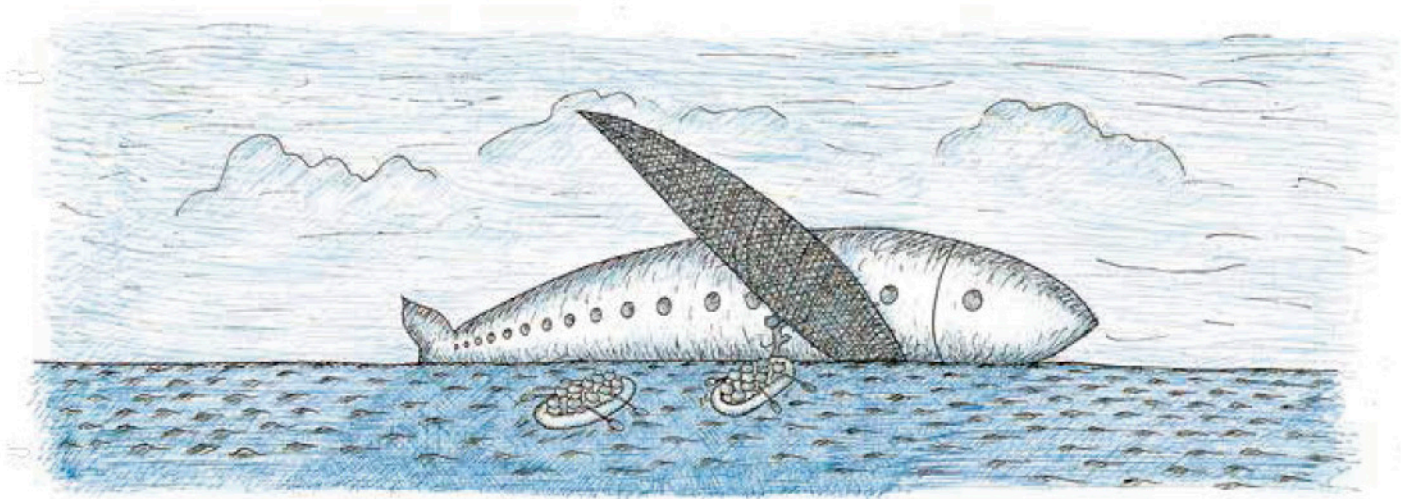


絵本デビュー作

中谷千代子《ジジオのかんむり》1960年



中谷千代子《いちごばたけのちいさなおばあさん》1973年



長新太《ごろごろにゃーん》1976年

関連イベント

① 講演会「子どもと絵本、大人も絵本を」

創刊から57年。「こどものとも」の生みの親であり、多くの絵本作家を発掘した松居直氏に、絵本の魅力について幅広くお話しいただきます。

日 時：9月23日(月・祝) 14:00-15:30(開場13:30)

講 師：松居直氏(児童文学者、「こどものとも」初代編集長)

会 場：当館多目的室 参 加 料：無料

定 員：100名 申込締切：9月6日(金) 必着

② ビーター・バラカンの「音を見る。アートを聴く。」第7回「絵本を聴く」

ブロードキャスターのビーター・バラカン氏を案内役にお送りするトークシリーズ第7弾。今回は本展にあわせ、絵本編集者の土井章史氏をゲストに、絵本をテーマにお話しいただきます。

日 時：10月20日(日) 14:00-15:30(開場13:30)

案内役：ビーター・バラカン氏(ブロードキャスター)

ゲスト：土井章史氏(トムズボックス代表、絵本編集者)

会 場：当館多目的室 参 加 料：1人につき500円

定 員：100名 申込締切：10月4日(金) 必着

③ ギャラリートーク

日 時：9月22日(日)、10月14日(月・祝)

いずれも14:00-(30分程度)

参加料：無料(要観覧券、当日受付前へ)

④ 絵本を楽しむおはなし会

日 時：9月14日(土)、21日(土)、10月5日(土)、12日(土)、19日(土)、26日(土)

いずれも13:30-14:30(各回30分程度)

本展出品作品の絵本を幅広く読み語ります。

朗読協力：静岡図書館友の会

会 場：当館展示室内会場

対 象：どなたでも(未就学児は保護者同伴)

参加料：無料(要観覧券、当日直接会場へ)

⑤ 柿木原さんの絵本ワークショップ

A.「絵本とおもちゃのおはなし」

B.「ひととえほん」

デザイナーで絵本作家でもある柿木原政広氏が仲間と手がけた絵本の世界をみんなで体験します。

日 時：A. 9月28日(土) 13:00-16:00

B. 9月29日(日) 13:00-16:30

講 師：A. 柿木原政広氏(アートディレクター)

柿田友広氏(子どもの本とおもちゃ 百町森)

B. 柿木原政広氏(アートディレクター)

近藤良平氏(ダンス集団・コンドルズ主宰)

山本尚明氏(写真家)

対 象：A. 0~2歳の子とその母(家族も可)

25組(1組4名様まで)

B. 小学生以上40名

会 場：当館多目的室

参加料：A. 1組につき500円 B. 1人につき500円

申込締切：A、Bともに9月13日(金) 必着

いろんな
絵本を
読むよ!

今回は特別に
4回実施!

⑥ しずびチビッコプログラム

小さな子どもたちのためのアート体験プログラム。

保護者の方は展覧会をご覧ください。

日 時：10月6日(日)、13日(日)

いずれも①10:30-12:00 ②14:00-15:30

対 象：2歳以上の未就学児 各10名

会 場：当館ワークショップ室

参加料：子ども1人につき500円 ※保護者は要観覧券

申込締切：9月20日(金) 必着

※はがきでの申込は官製はがきに、希望日時・保護者の氏名・子どもとの続柄・住所・電話(緊急連絡先)・子どもの名前・子どもの人数・性別・年齢(月齢まで)を明記。

【申込方法】

当館HP申込フォーム(www.shizubi.jp)または往復はがきにて。1件につき2名様まで。応募者多数の場合は抽選。

※往復はがき記載事項

① 催事名、催事日 ② 氏名(参加人数分) ③ 年齢

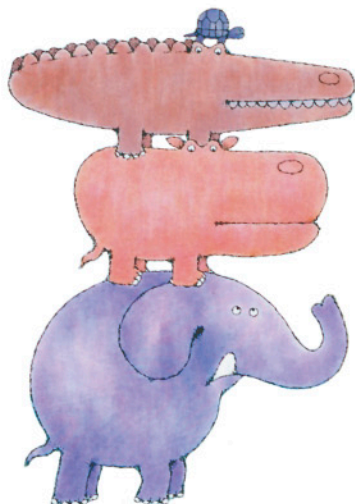
④ 住所(郵便番号から) ⑤ 電話番号

返信面に宛先を記入の上、静岡市美術館まで。

※抽選の如何にかかわらず結果は通知致します。

毎週木曜・土曜はトークフリーデー!

● 会話を楽しみながらご観覧ください ●



なかのひろたか
《ぞうくんのさんぽ》(部分) 1968年

開館時間：10:00~19:00(展示室入場は開館の30分前まで)

休館日：月曜日(ただし、祝日の場合は開館、翌日休館)

観覧料：一般800(600)円、大高生・70歳以上600(400)円、中学生以下無料

※()内は前売りおよび当日に限り20名以上の団体料金 ※障害者手帳等をご持参の方および介助に必要な方は無料

前売券：7月20日(土)から9月13日(金)まで販売 静岡市美術館、チケットぴあ[Pコード:765-755]、ローソンチケット[Lコード:40313]、セブンチケット[セブンコード:023-990]、谷島屋呉服町本店、谷島屋マークイズ静岡店、戸田書店静岡本店、戸田書店城北店、江崎書店パルシェ店、MARUZEN&ジュンク堂書店新静岡店、百町森

主催：静岡市、静岡市美術館 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団、静岡第一テレビ、NHKプラネット中部

出品協力：宮城県美術館

後援：静岡市教育委員会、静岡県教育委員会

協力：福音館書店、静岡図書館友の会、静岡市立図書館、静岡県立中央図書館